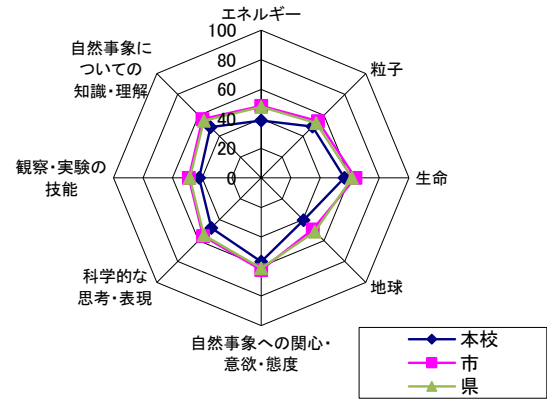


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	38.8	48.8	48.1
	粒子	49.1	54.4	52.6
	生命	56.3	63.7	61.5
	地球	40.5	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	56.7	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	47.8	55.7	54.8
	観察・実験の技能	42.0	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	48.7	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	県の平均正答率を9.3ポイント下回っている。 ○音の伝わり方については、比較的理解度が高い。 ●エネルギー分野全体的に課題が多い。特に力の性質に関する内容の理解が不足している。	・グラフを用いて、おもりにはたらく重力とばねののびの関係を調べるなど、実験のデータ処理のしかたを丁寧に指導する。音や光の性質については、演習を多く取り入れるとともに、振り返りの実験などを行い、理解を深めさせる。
粒子	県の平均正答率を3.5ポイント下回っている。 ○粒子分野、特に気体の性質や物質の状態をモデルで考えることについては、比較的高い正答率が得られている。 ●密度や濃度を求める問題では、計算が伴うため、苦手意識の高い様子が見られる。	・密度や濃度の意味を理解し、割合を用いて量を比較する便利さを感じさせ、計算問題を繰り返し解かせる。
生命	県の平均正答率を5.2ポイント下回っている。 ○植物のからだについての理解は比較的できている。 ●植物の分類、動物の分類の理解が不足している。	・植物や動物の分類は、それぞれの特徴を挙げた後、系統立てることで、分類の手法をつかませる。
地球	県の平均正答率を10.9ポイント下回っている。 ○火成岩のでき方や堆積岩、地層から推測できることについて、比較的理解ができている。 ●火成岩、堆積岩の構造について、比較して理解する必要性が見られる。	・火成岩、体積岩の理解については、実物を見せてそれぞれの特徴をつかませる。その際、ルーペで見た様子を含めて、それぞれの特徴を比較させる。